NIE実践報告

1．タイトル：☆寺井高校のNIEのとりくみ・・・主体的に考え、まとめ、表現する力を養う

2．学校名

石川県立寺井高等学校

3．実践者名（代表者名）

大柳　周作

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

現代社会　160人

6．単元（本時の学習課題）名

現代の経済社会と私たちの生活　「日本の農業と食料問題」

7．目標(狙い)

新聞記事を通して、日本の食糧自給率低下と輸入増大がもたらした「食の安全性」など食にかかわる諸問題を学習し、消費者としてこれからどのような行動をするか考える。

8．評価の視点

現在の食にかかわる諸問題の要因を考察．理解し、今後の生活にどう生かそうと考え、行動するか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

第3章　現代の経済社会と私たちの生活（8時間）内⑨「日本の農業と食料問題」2時間の中の2時間目

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

・時数　1時間
・前回の授業の確認：日本の食料自給率の低下と現状を確認する。
・導入：自給率の低下に対し、どのように食料を確保しているか確認する。→輸入の増大
　　近年、食料はどこの国に依存しているか、その理由も調べる　→　中国産の食品の増加・安い，近い
・展開：昨今の食に関する安全性の問題を生徒に尋ね、新聞記事で時系列に紹介しながら掲示
　　（各社の1面記事利用：カラー写真でコンパクトな見出し　汚染米、製品の回収、メラニンの混合）
　　その他の食に関する問題も紹介する。（うなぎ産地偽装等）
・発展：企業の食の安全に関するとりくみを紹介し、試食する
　　遺伝子組み替えをしない国内産の原材料を使用
・まとめ：食品を選ぶ際、何に注意する必要があるか。また、現状を生み出した要因は何か。私達は今後どのような行動をとらねばならないか、生徒に発問し、感想を書かせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

食の安全性の問題がいかに深刻に多方面に広がっているか、生徒は新聞記事を通して実感したようである。多くの生徒が「これから商品を選ぶとき、単に値段で選ぶのではなく、生産者や原材料の産地等を確認して選びたいたい。」と述べていた。

12．成果と課題

「汚染米、メラニンの混入、製品回収、うなぎ産地偽装」など時系列で食の問題の広がりを新聞記事で提示することにより、生徒は問題の深刻さを実感できたようである。また、授業のまとめとして、A社のポテトチップスを実際に食することで、企業の安全性に対するとりくみを学ぶこともできた。しかし、外国産の食料に依存する背景、食料自給率を高める方法・政策までの考察には至らなかった。今後、単に食だけでなく、日常生活での様々な問題を新聞を通して、生徒が自発的に学習していってもらいたい。